

経済・金融
フラッシュロシアの物価状況(25年5月)
ーインフレ圧力の軽減傾向が継続

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要:前年比で総合指数は9.9%、コア指数は8.9%といずれもやや低下

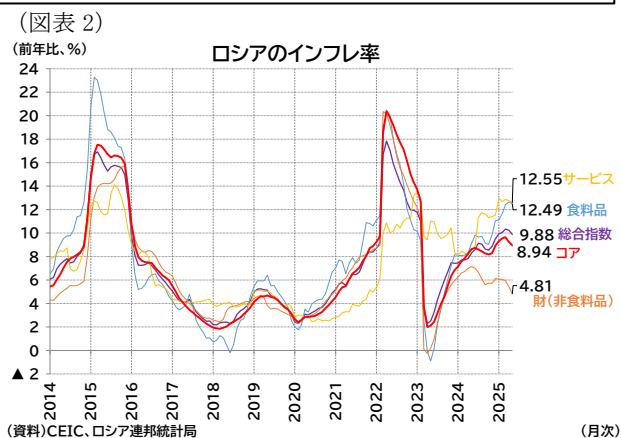
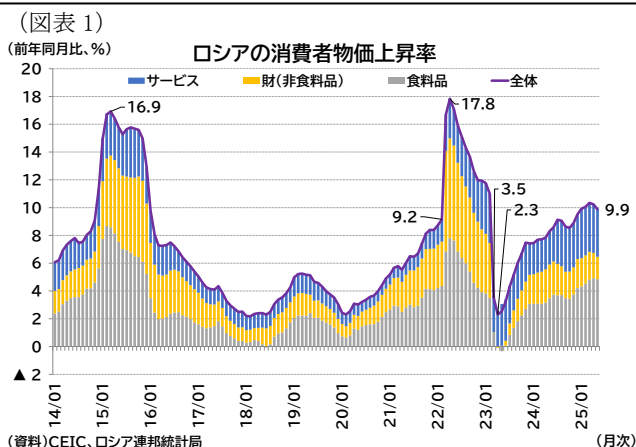
6月12日、ロシア連邦統計局は消費者物価指数を公表し、結果は以下の通りとなった。

【総合指数(25年5月)】

- ・前年同月比は9.88%、市場予想¹(9.80%)よりやや上振れ、前月(10.23%)から低下した(図表1)
- ・前月比は0.43%、市場予想(0.35%)より上振れ、前月(0.40%)からやや加速した

【コア指数²(25年5月)】

- ・前年同月比は8.94%、前月(9.23%)から低下した(図表2)
- ・前月比は0.60%、前月(0.32%)から加速した



2. 結果の詳細:前月比での下落品目は多い

5月のロシアのインフレ率は前年比で9.88%となり、4月(10.23%)から低下、25年1月(9.92%)以来の1桁台となった。なお、6月6日、ロシア中銀は内需の伸び鈍化とインフレ鈍化を受けて、22年9月以来となる利下げを決定している(21.0→20.0%)。

インフレ率を大分類別に見ると、5月の前年比伸び率は食料品が12.49%(前月:12.66%)、財(非食料品)が4.81%(前月:5.43%)、サービスが12.55%(前月:12.76%)となり、いずれの大分類でも低下した。

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

² 生鮮食品など季節的要因による影響を受ける品目や管理品目を除いた指数。

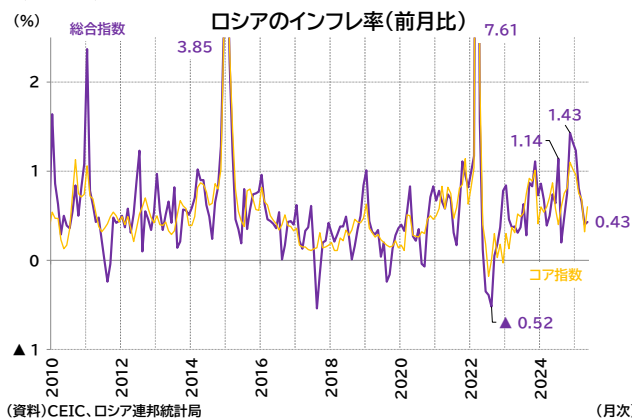
前年比寄与度では食料品が 4.8%ポイント程度、財（非食料品）が 1.6%ポイント程度、サービスが 3.5%ポイント程度と見られる（図表 1）。

5 月の前月比伸び率は、総合指数で 0.43%、コア指数で 0.60%となった。これまでの減速傾向から反転、総合指数・コア指数ともにコロナ禍前の標準的な上昇率から再び上振れした（2018 年の前月比伸び率は平均で総合指数が約 0.35%、コア指数が約 0.30%、図表 3）。

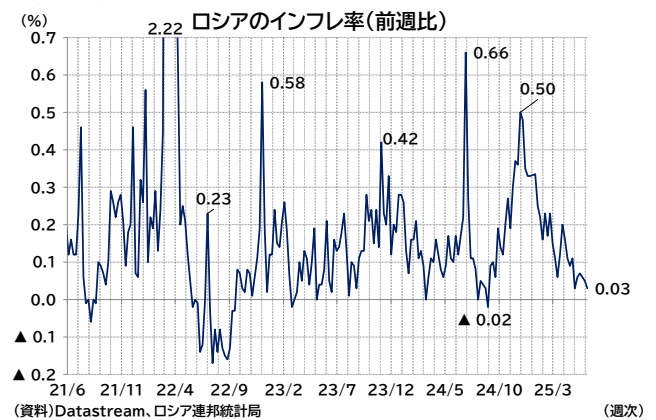
前月比伸び率を大分類で見ると食料品が 0.26%（前月：0.71%）、財（非食料品）が▲0.13%（前月：▲0.07%）、サービスが 1.34%（前月：0.53%）となった。

別途、ロシア連邦統計局が公表している週次のインフレ率（消費者物価上昇率）を見ると、最新の 6 月 9 日時点において、前週比で 0.03%の上昇となった（図表 4）。6 月も物価上昇の勢いは落ち着いた状況となっている。

（図表 3）



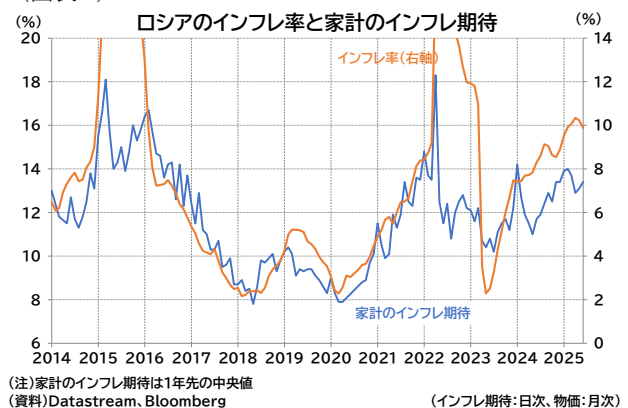
（図表 4）



ロシア中央銀行が公表する家計のインフレ期待（1 年先中央値、実際のインフレ率よりも高めになる傾向がある）は、5 月は 13.4%で、実際のインフレ率は低下したにもかかわらず、期待インフレ率は 4 月から上昇した。ただし、これまで過去の傾向（期待インフレ率＝前年比インフレ率＋6%、図表 5）と比較すると、期待インフレ率と実際のインフレ率との乖離が拡大している状況は続いている（期待インフレ率がやや低め）。

品目別の上昇率を見ると³（図表 6）、5 月は前年比でバター（28.91%）、魚・海鮮（20.83%）、青果物（19.84%）、旅客サービス（19.23%）の伸び率が高い一方、卵（▲18.04%）とテレビ（▲6.3）は前年比でもマイナスとなった。また、前月比では、海外旅行サービス（4.03%）、旅客サービス（3.47%）の上昇率が相対的に大きい一方、卵（▲6.00%）、テレビ（▲2.78%）、青果物（▲1.96%）、タバコ（▲0.95%）は下落幅が大きかった。

（図表 5）



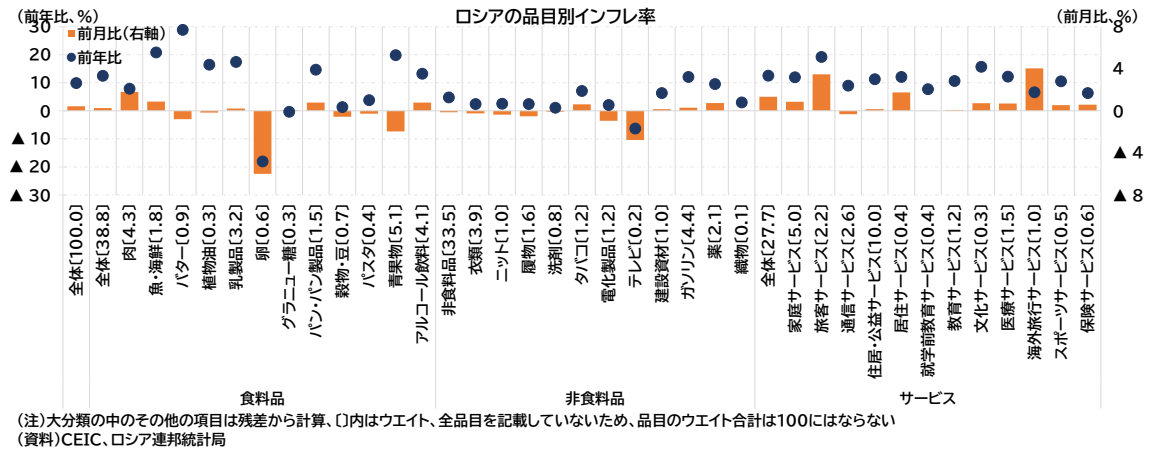
各品目の消費ウェイトも考慮して、全体のインフレ率への寄与を品目別に見ると（図表 7・8）、前年比上昇率への寄与が大きい品目は住居・公益サービス（1.14%ポイント）、青果物（1.02%ポイ

³ 大分類である食料品、財（非食料品）、サービスをそれぞれ細目別に分類したもの（中分類）のうち、[統計局のウェブサイト](#)で公表しているものを記載。健康増進サービスおよび残差から算出されたその他サービスは前月比のみ。

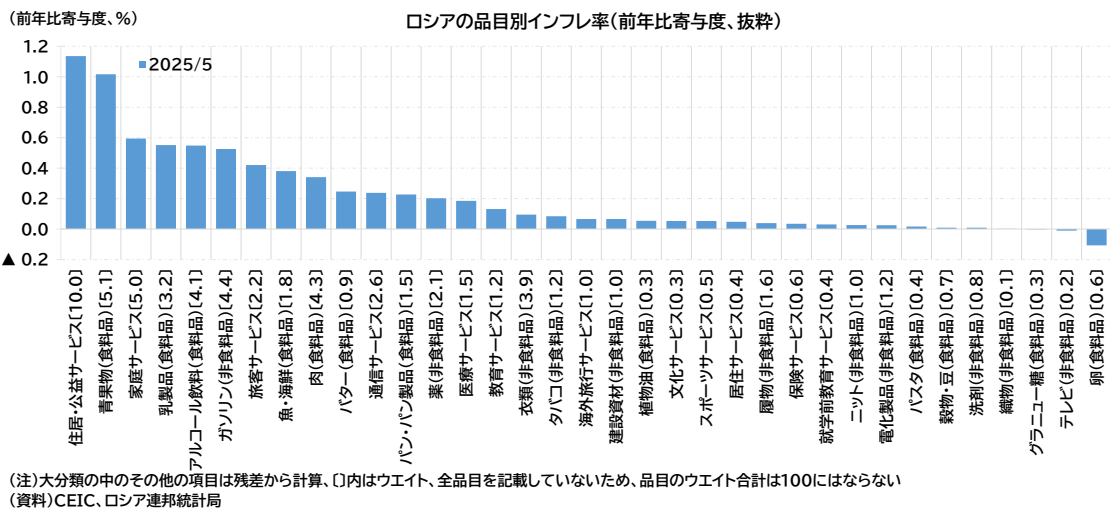
ント)、下落率への寄与が大きい品目は卵(▲0.11%ポイント)だった。

前月比上昇率の寄与では、その他サービス(約0.16%ポイント)、肉(約0.08%ポイント)、旅客サービス(約0.08%ポイント)のプラス寄与が相対的に高い一方、青果物(約▲0.10%ポイント)、卵(約▲0.04%ポイント)はマイナス寄与が大きく、また下落品目も多かった。

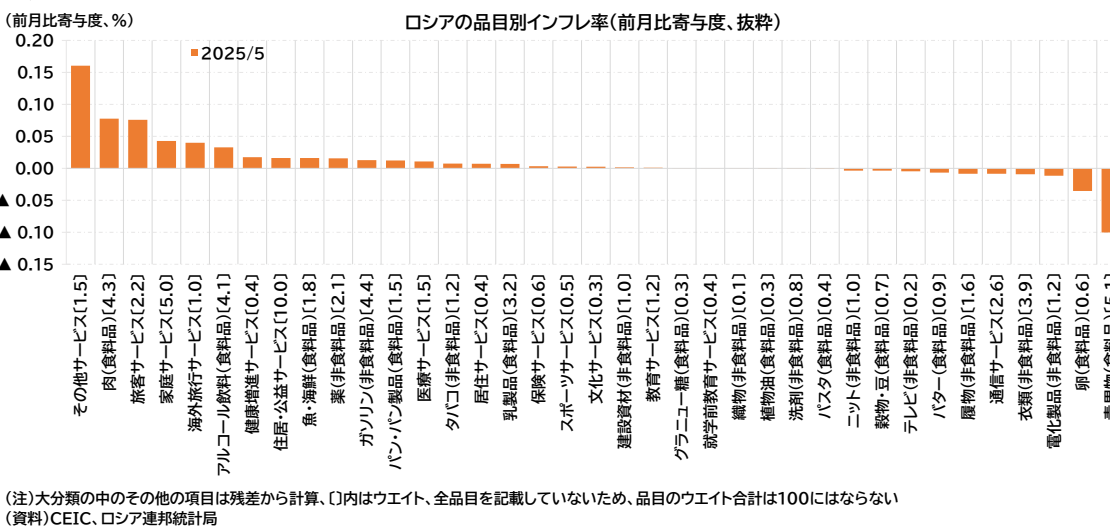
(図表 6)



(図表 7)



(図表 8)

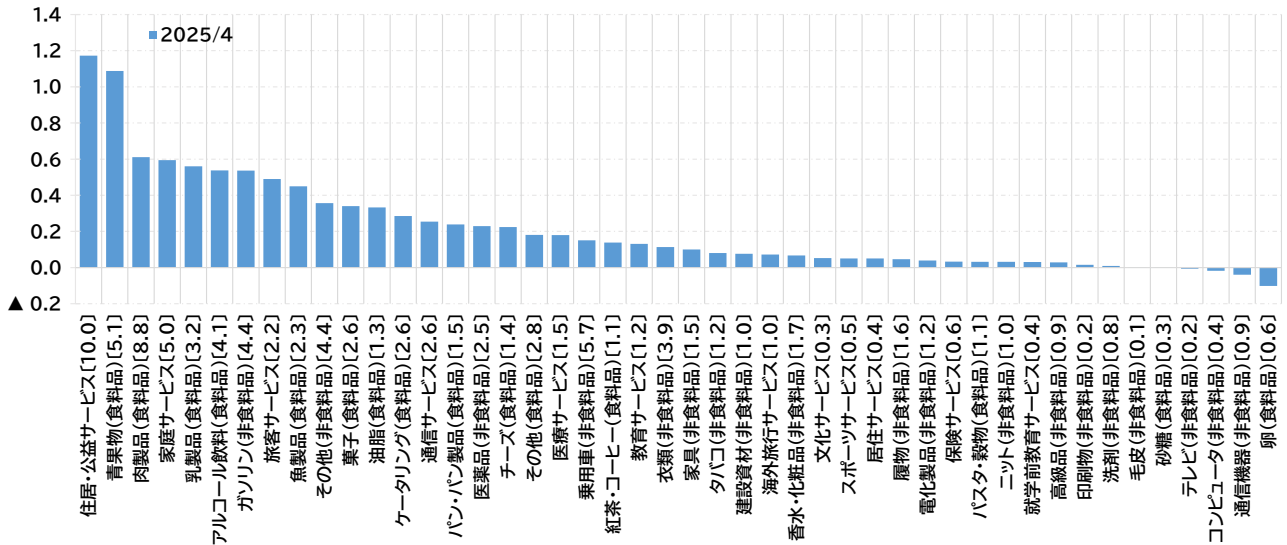


なお、現時点において統計局ウェブサイトで公表されていない品目も含む4月の上昇率寄与を見ると、前年比では概ね5月と同様の傾向が見て取れる（図表9・10）。

（図表 9）

（前年比寄与度、%）

ロシアの品目別インフレ率（前年比寄与度）

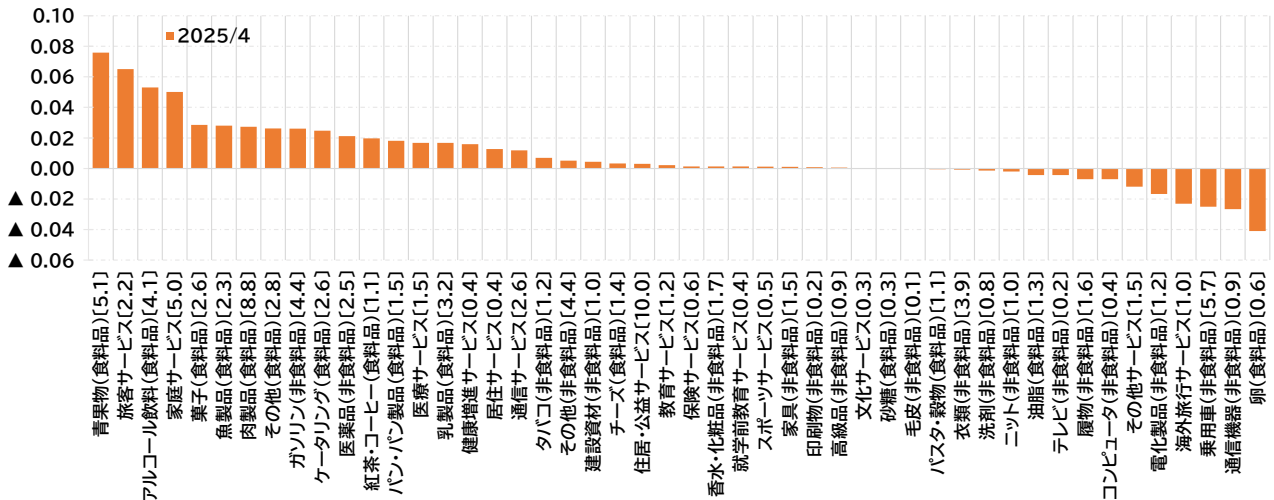


（注）各大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

（図表 10）

（前月比寄与度、%）

ロシアの品目別インフレ率（前月比寄与度）



（注）各大分類の中のその他の項目は残差から計算
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

本資料記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と完全性を保証するものではありません。
また、本資料は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。